



2022年11月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年10月4日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社エスプール
 コード番号 2471 URL <https://www.spool.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 浦上 壮平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部担当 (氏名) 佐藤 英朗 TEL 03-6859-5599
 四半期報告書提出予定日 2022年10月11日
 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年11月期第3四半期の連結業績（2021年12月1日～2022年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年11月期第3四半期	20,019	11.0	2,274	17.7	2,272	16.7	1,444	14.0
2021年11月期第3四半期	18,031	18.1	1,932	23.9	1,946	25.0	1,267	22.1

(注) 包括利益 2022年11月期第3四半期 1,484百万円 (15.1%) 2021年11月期第3四半期 1,289百万円 (23.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年11月期第3四半期	18.29	—
2021年11月期第3四半期	16.05	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年11月期第3四半期	16,708	7,080	42.4	89.73
2021年11月期	15,320	6,106	39.7	76.94

(参考) 自己資本 2022年11月期第3四半期 7,088百万円 2021年11月期 6,078百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年11月期	—	0.00	—	6.00	6.00
2022年11月期	—	0.00	—	—	—
2022年11月期（予想）	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年11月期の連結業績予想（2021年12月1日～2022年11月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,770	15.7	3,200	19.9	3,176	18.8	2,133	13.4	27.01

(注) 1. 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2022年11月期の連結業績予想に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料の「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2022年11月期3Q	79,007,500株	2021年11月期	79,007,500株
2022年11月期3Q	3,855株	2021年11月期	3,855株
2022年11月期3Q	79,003,645株	2021年11月期3Q	79,003,645株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料の「1. 当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間においては、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限等が緩和され、景気の緩やかな持ち直しの動きが見られました。しかしながら、新たな変異株による感染の再拡大に加えて、ウクライナ情勢の長期化や急激な円安の進行によるエネルギー価格及び原材料価格の高騰などが重なり、結果的には厳しい状況が続くこととなりました。

そのような中、当社グループは、領域の異なる事業を複数展開するポートフォリオ経営を推進したことにより、人材ソリューション事業の落ち込みの影響を最小限に抑え、売上・利益ともに第3四半期連結累計期間における過去最高を更新しました。障がい者雇用支援サービスにおいては、第4四半期の販売ピークに向けて営業活動が好調に推移したほか、管理収入が順調に積み上がっており、収益は安定的に拡大しました。また、環境経営支援サービス、広域行政BPOサービスなどの新規事業も好調な立ち上がりを見せており、グループ業績に大きく寄与しました。一方、人材アウトソーシングサービスについては、増収基調が長らく続いていましたが、当第3四半期はコールセンター業務のスポット案件の縮小に販売支援業務の回復遅れが重なり、拡大にブレーキがかかる結果となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は20,019百万円（前年同四半期比11.0%増）、営業利益は2,274百万円（前年同四半期比17.7%増）、経常利益は2,272百万円（前年同四半期比16.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,444百万円（前年同四半期比14.0%増）となりました。

なお、当社グループは、社会的価値と経済的な価値の両立を実現することを中期的なビジョンとし、①「既存事業の深堀りによるオーガニック成長の継続」、②「新たな事業領域における成長機会の獲得」、③「ESGを軸とした経営基盤の強化」の3点を重点戦略として定めております。

2022年11月期第3四半期連結累計期間 連結業績

(単位：百万円)	2021年11月期 第3四半期	2022年11月期 第3四半期	増減率
売上高	18,031	20,019	11.0%
営業利益	1,932	2,274	17.7%
経常利益	1,946	2,272	16.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,267	1,444	14.0%

当第3四半期連結累計期間のセグメント経営成績（セグメント間内部取引消去前）は以下のとおりであります。

①ビジネスソリューション事業

[事業概要]

ビジネスソリューション事業では、シニアや障がい者など潜在労働力の活用を支援するサービスや、企業の業務の一部を受託するアウトソーシングサービスを提供しています。前者においては、株式会社エスプールプラスが、障がい者の就労に適した農園を企業に貸し出し、主に知的障がい者の採用・教育から定着化までを支援するサービスを行っています。株式会社エスプールでは、様々な経験やノウハウを有するシニアを企業の経営課題や業務課題の解決に役立てるプロフェッショナル人材サービスを提供しています。

後者のアウトソーシングサービスでは、株式会社エスプールロジスティクスが、通販商品の発送を代行する物流サービスを行っています。株式会社エスプールリンクでは、アルバイトやパートの求人応募の受付を代行する採用支援サービスを提供しており、株式会社エスプールセールスサポートでは、対面型の会員獲得業務や販売促進業務を行っています。ブルードットグリーン株式会社は、CO₂の排出量算出や環境情報の開示に関するコンサルティング、カーボンオフセット仲介など環境経営の支援に関するサービスを提供しています。また、2021年12月に新設した株式会社エスプールグローバルでは、複数の自治体の行政業務を一括で受託する広域行政BPOサービスを行っています。

[当第3四半期連結累計期間の経営成績]

障がい者雇用支援サービスにおいては、E S G経営の浸透に伴い企業の障がい者雇用に対する意識が一段と高まっており、営業活動は引き続き好調に推移しました。設備販売の多くは農園開設が集中する第4四半期となるため、当第3四半期連結累計期間での販売は大きくなかったものの、ストック収入となる管理料が順調に増加しており増収増益を達成しました。ロジスティクスアウトソーシングサービスについては、事業基盤の再構築に注力しました。低採算案件の整理等により収益の安定化が進んだほか、新規案件の獲得も順調に推移しており、再成長に向けて復調の兆しが見えてきました。環境経営支援サービスにおいては、T C F D提言に沿った情報開示の支援業務の増加に加え、C D Pの回答支援のコンサルティング業務の受注が昨年から倍増となっており、当第3四半期終了時点で通期の売上計画を大きく超過することとなりました。広域行政B P Oサービスについては、当第3四半期でのセンターの新設はありませんでしたが、既存センターの売上が順調に伸びたことで大幅な増収増益となりました。採用支援サービスにおいては、行動制限の緩和とともに回復基調にありましたが、新型コロナウイルスの感染が再拡大したことで飲食業の採用が再び抑制されることとなり、回復に水を差す結果となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は7,243百万円（前年同四半期比35.5%増）、営業利益は2,053百万円（前年同四半期比48.0%増）となりました。

②人材ソリューション事業

[事業概要]

人材ソリューション事業は、人材派遣サービスを主力とする株式会社エスプールヒューマンソリューションズが提供するサービスで、コールセンター等のオフィスサポート業務とスマートフォンや家電製品等の店頭販売支援業務に関する人材サービスを展開しています。サービスの特徴は、フィールドコンサルタント（F C）と呼ばれる同社の従業員と派遣スタッフをチームで派遣する「グループ型派遣」の形態を採用している点になります。派遣先に常駐するF Cが派遣スタッフを現場で手厚くフォローすることで、未経験者を短期間で育成できるだけでなく定着率の向上にもつながり、顧客満足度の向上とシェア拡大につながっています。

[当第3四半期連結累計期間の経営成績]

主力のコールセンター業務については、新型コロナウイルス感染症対策に関連したスポット業務が縮小となる一方で、新たな案件の獲得が遅れており、売上が伸び悩む結果となりました。また、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、派遣スタッフの欠勤が相次いだことも売上に大きな影響を及ぼしました。販売支援業務については、一部の業務において再開の兆しが見えてきたものの、通信キャリア関連の人材ニーズが弱く本格的な需要回復には至りませんでした。その一方で、売上減に対応するため支店の統廃合や人員体制の見直しなど販売費及び一般管理費の削減に取り組みましたが、その効果は第4四半期以降になる見込みで、当第3四半期では限定的となりました。その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は12,873百万円（前年同四半期比1.1%増）、営業利益は1,322百万円（前年同四半期比11.2%減）となりました。

2022年11月期第3四半期連結累計期間 セグメント別業績

売上高 (単位: 百万円)	2021年11月期 第3四半期	2022年11月期 第3四半期	増減率
報告セグメント	18,074	20,116	11.3%
ビジネスソリューション事業	5,344	7,243	35.5%
人材ソリューション事業	12,730	12,873	1.1%
調整額	△42	△96	－%
合計	18,031	20,019	11.0%

営業利益 (単位: 百万円)	2021年11月期 第3四半期	2022年11月期 第3四半期	増減率
報告セグメント	2,876	3,375	17.3%
ビジネスソリューション事業	1,387	2,053	48.0%
人材ソリューション事業	1,489	1,322	△11.2%
調整額	△944	△1,100	－%
合計	1,932	2,274	17.7%

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は、前連結会計年度末から576百万円減少し、7,141百万円となりました。人材ソリューション事業を中心として売上が増加しておりますが、売上債権の回収が進んだ結果、受取手形及び売掛金が371百万円減少しております。

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は、前連結会計年度末から1,964百万円増加し、9,567百万円となりました。障がい者雇用支援サービス拡大のため、株式会社エスプールプラスにて、新規農園の建設や既存農園の増設をしており、有形固定資産が1,894百万円増加しております。

②負債

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は、前連結会計年度末から237百万円増加し、7,206百万円となりました。納税や投資活動による支出等に備えて短期借入金を474百万円借り増ししております。

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は、前連結会計年度末から175百万円増加し、2,421百万円となりました。長期借入金の返済により171百万円減少し、農園の新規建設等により資産除去債務が302百万円増加しております。

③純資産

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益により利益剰余金が1,444百万円、ブルードットグリーン株式会社の株式を追加取得したことにより資本剰余金が24百万円増加し、一方、第22期末配当により474百万円減少し、7,080百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年1月13日に公表いたしました2022年11月期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,938	3,770
受取手形及び売掛金	3,411	3,040
商品	170	141
その他	204	194
貸倒引当金	△6	△4
流動資産合計	7,717	7,141
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,106	7,019
その他(純額)	532	1,513
有形固定資産合計	6,638	8,533
無形固定資産	71	61
投資その他の資産		
繰延税金資産	60	57
その他	844	914
貸倒引当金	△12	—
投資その他の資産合計	893	972
固定資産合計	7,603	9,567
資産合計	15,320	16,708
負債の部		
流動負債		
買掛金	218	218
短期借入金	3,450	3,924
1年内返済予定の長期借入金	228	228
未払法人税等	377	419
未払費用	1,564	1,331
賞与引当金	93	112
役員賞与引当金	40	—
その他	995	972
流動負債合計	6,968	7,206
固定負債		
長期借入金	1,188	1,016
繰延税金負債	118	186
資産除去債務	893	1,195
その他	45	22
固定負債合計	2,245	2,421
負債合計	9,214	9,627
純資産の部		
株主資本		
資本金	372	372
資本剰余金	222	246
利益剰余金	5,484	6,455
自己株式	△0	△0
株主資本合計	6,078	7,073
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	—	15
為替換算調整勘定	0	0
その他の包括利益累計額合計	0	15
非支配株主持分	27	△8
純資産合計	6,106	7,080
負債純資産合計	15,320	16,708

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)
売上高	18,031	20,019
売上原価	12,750	13,548
売上総利益	5,280	6,470
販売費及び一般管理費	3,348	4,195
営業利益	1,932	2,274
営業外収益		
受取利息	0	0
助成金収入	28	19
その他	2	1
営業外収益合計	31	20
営業外費用		
支払利息	16	21
その他	0	1
営業外費用合計	17	23
経常利益	1,946	2,272
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	—	4
特別利益合計	0	5
特別損失		
固定資産除却損	10	23
特別損失合計	10	23
税金等調整前四半期純利益	1,937	2,253
法人税、住民税及び事業税	592	720
法人税等調整額	56	64
法人税等合計	648	784
四半期純利益	1,289	1,468
非支配株主に帰属する四半期純利益	21	24
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,267	1,444

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)
四半期純利益	1,289	1,468
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	15
為替換算調整勘定	0	0
その他の包括利益合計	0	15
四半期包括利益	1,289	1,484
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,267	1,460
非支配株主に係る四半期包括利益	21	24

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

当社グループにおける主な収益は、顧客との財及び役務提供契約から生じる収益であり、当該契約における一定の期間にわたる履行義務の充足につれて収益を認識することとしておりますが、従来の取り扱いから変更される事項はないため、収益認識に関する会計基準等の適用による四半期連結財務諸表への影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年12月1日 至 2021年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	5,320	12,711	18,031	—	18,031
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	24	18	42	△42	—
計	5,344	12,730	18,074	△42	18,031
セグメント利益	1,387	1,489	2,876	△944	1,932

(注) 1. セグメント利益の調整額△944百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△944百万円でありま
す。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年12月1日 至 2022年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ビジネスソリューション事業	人材ソリューション事業	計		
売上高					
(1) 外部顧客への売上高	7,201	12,817	20,019	—	20,019
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	41	55	96	△96	—
計	7,243	12,873	20,116	△96	20,019
セグメント利益	2,053	1,322	3,375	△1,100	2,274

(注) 1. セグメント利益の調整額△1,100百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,101百万円及び
調整額0百万円であります。全社費用は、当社の管理部門に係わる費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。